

会 議 録				
令和元年度第2回 生活支援事業協議体	日 時	令和元年9月17日(火) 14時00分～16時00分	場 所	前原暫定集会施設 A会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	高良委員長（東京学芸大学） 小早川委員（社会福祉協議会） 阿久津委員（社会福祉協議会） 山根委員（小金井市介護事業者連絡会代表） 井上委員（ボランティア団体代表） 第2層コーディネーター 中川氏（小金井きた地域包括支援センター） 金子氏（小金井ひがし地域包括支援センター） 馬場氏（小金井みなみ地域包括支援センター） 雨宮氏（小金井にし地域包括支援センター）		
	事務局	濱松、菊地原（介護福祉課）		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会 挨拶 濱松包括支援係長				
2 議題 (1)報告事項 ① 前回本協議体からの進捗等 ② 資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況 ③ 6～8月分生活支援連絡会報告 ④ 令和元年度お元気サミット in 小金井報告 ⑤ 今年度活動進捗報告（にし・みなみ） (2)検討事項（グループワーク） 地域の目指す姿について ・第7期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ・グループワーク用説明資料				
3 その他				

次回協議体の開催予定

4 閉会

1 開会

(濱松包括支援係長)

事務局より事務連絡。

事務局による I C レコーダーの録音方式

民生委員の清水委員欠席

平岡高齢福祉担当課長が急な業務のため欠席

(高良委員長)

挨拶

(濱松包括支援係長)

挨拶

2 議題

(1) 報告事項

① 前回本協議体からの進捗等

(濱松包括支援係長)

資料 1 について説明。

(高良委員長)

協議体でできたことをまとめてくれるのはとてもいい。記録をとっておくことは大切。生活支援コーディネーターの役割と地域包括支援センターの役割といろいろな役割を持つ人たちが地域で動いているような状況になっているので、地域福祉ファシリテーターとの協働ができるといい。

② 資源情報冊子「シニアのための地域とつながる応援ブック」作成状況

(濱松包括支援係長)

現在、委託契約の作業中。

今回表紙は、東京学芸大学の卒業生の方がこちらを作成。

配布場所、配布機会をふやせるように努めたい。

(高良委員長)

これは応援ブックを使ったことによってどうかしたみたいなおことは収集できているのですか。

(濱松包括支援係長)

出したことによる効果というところまでは把握していない。何か指標を持って振り返りをしていくというのはしていない。

(高良委員長)

次の段階でこれを使ったことによってここにつながったというのを、来られた方にどうやって知ったのかとただ聞くだけでも、こういうふうな情報がもうちょっと欲しかったとかいうのを聞けるとよい。

③ 6～8月分生活支援連絡会報告

(高良委員長)

③「6～8月分生活支援連絡会報告」をお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

資料2について説明。

(高良委員長)

継続的に定期的に話し合いをし、この話し合いのプロセスがすごく重要。定期的にお話しされている中での積み立てが多分実践につながっているのだろうと思う。

④ 令和元年度お元気サミット in 小金井報告

(濱松包括支援係長)

ことは日にちは2月20日の木曜日と2月21日の金曜日の2日間。

生活支援体制整備事業は、2月21日午前中に実施することと決まった。昨年同様、展示もすることができまして、展示につきましては恐らくタイムスケジュールの関係上、20日の午後から準備を始めて、準備が終わり次第展示開始。また、21日は通しで展示がマルチパーパススペースとあって、宮地楽器ホールのガラス張り沿いにずっと展示ができるような形になればと思っている。

中身については昨年同様講演会のようにするのか、一昨年度のような例えば交流会のようにするのかは今後また検討していきたいと考えている。

(高良委員長)

この生活支援もどういうことをやるのかは、先ほど御報告いただきました連絡会等で詰めていかれる感じなのか。

(濱松包括支援係長)

何か皆様から御意見があれば適宜私どもにいただければと考えている。いきなり決まりましたという御連絡ではなくて、必ず皆様の御意見をいただいた上で詰められる形にしたいと思っている。

⑤ 今年度活動進捗報告

(雨宮氏)

進捗状況です。高良先生から情報をいただきまして、7月17日に学芸の森環境機構の講習会に参加させていただきました。参加者の方にとっても好評で、参加人数も多かったものですから、今後もウォーキングに関してはいろいろな方法を取り入れていきたいと考えている。

今後ボランティア団体との連携というところなのですが、10月にやはりウォーキングを企画しておりまして、10月の予定では昔の小金井についてお話を聞きながら散策することを計画している。11月にはリハビリ職の専門職の方に御参加いただいて、寒くなる前に体を動かすコツを学びながら散策予定。

(高良委員長)

引き続きいろいろな社会資源を活用しながら皆さんが活動できる場所にしていただければと思う。

(馬場氏)

小金井市地域課題分析・評価シートから説明。

ことし地域課題と考えられる課題は、「1 意見・交流の場所に来る人が固定化している」「2 情報を必要としている人に必要な情報が届いていない」というような。

それに対して、今回活動目標として情報交換などの機会の際にいろいろな人にアプローチをする、情報発信の方法を工夫する、情報を必要としている人を把握するという目標を上げた。

手段として、地域の祭りや多世代の方が集いそうな場所に出向いて、ポストカードを配るなど周知活動を行っている。また、「③小地域ケア会議や町別ネットワークなどの機会に情報を必要とする人を把握する」というところで、ことしは「担い手って何」というテーマでいろいろと地域の方を集めて意見を聞いていこうと思っている。また、町別ネットワークでは情報を必要としている人たちの把握をするように民生委員の方々から情報を集めたりした。

「③新しい場所の立ち上げ支援の際に地域の情報を確認する」では、有料ホームでさくら体操などを立ち上げ、涼みの場の設置などの立ち上げに向けて住民の方たちと

話し合いを重ねた。

(高良委員長)

涼みの場があると、孤立を防ぐという意味においてもいい。今度また季節的に変わっても、また別の暖かくできる場とか、それもこたつとかを置いておいてみんなでいろいろできる場もいいと思う。

(井上委員)

この間のお祭りの後の記念品の中にみなみ包括のものが入っていました。

それとみなみ包括の涼みの場とかそういうものは何か場所があったのですか。

(馬場氏)

集会所が団地にあった。

参加する方は、通常週2回だったところを週4回にふやし、今まで顔を見せたことがない方が参加したり、少しは効果があったと思っている。

(高良委員長)

またこういう場で実際に困っていることを言えるような関係の方がいらっしゃったり、何か本当に必要な方がつながれる場所になってくるともっといいのではないかなと思う。

(2) 検討事項 (グループワーク)

地域の目指す姿について

(菊地原介護福祉課職員)

今回のグループワークについて説明。

生活支援体制整備事業を進めていく上で市がどのようなことを求めているのか、どのような形をつくっていきたいのかという地域の目指す姿を提示する必要があるなど考えた。例えば他市の情報で、栃木県大田原市も同じように地域の目指す姿を考えていまして、そこでは「お互いの顔が見える地域づくりを目指して～住民主体の共生社会をつくろう～」という地域像を決めた。

(濱松包括支援係長)

市としてこの事業を通して期待することについて説明。(資料6参照)

小金井市が期待しているのは大事なものは社会参加、生活支援、介護予防ということを考えている。こちらは社会参加の機会を通じて、生活支援や介護予防に向けた取り組みが生じる、生活支援に取り組むことが、社会参加、介護予防につながる、介護予防に取り組んだ結果、社会参加に取り組むことができる心身状態を維持できるとか回

復するという一方で、それぞれ単独でやっていくものではなくて、それぞれが相互に作用するような形に持っていき、というものが一番期待している効果としてあらわれやすいものなのかと考えている。

最終的に小金井市はどこに期待するのは、事業を進めていく中での住民主体、住民同士の関係性の構築や互助の気持ちの醸成になる。いろいろな方と意見交換をする中で住民同士の関係性ができていったり、さらにその中でそういうものを進めていこうとするとお互い助け合えなければだめだよという気持ちが生まれてくる、実際に生まれてきていると聞いているので、こういったお互い助け合いの気持ちが芽生えていくのが役所の仕事としてはこの事業以外余り考えにくいところで、サービスができるというのは結果論ですが、サービスが生まれる過程において住民同士の支え合う気持ちが生まれてくるのが小金井市としては一番期待している。

(グループワーク中)

(濱松包括支援係長)

互助の気持ちを醸成していくためにはというところで、ボランティアをすることによってボランティアは相手を助けるだけではなくて、助ける側も何かしら得るもの、幸せ的などという言い方をされていた。キーワードとしては「つながり」とか「知る・つながる・生まれる」とか、あとは今回最初のステップとしては知ってもらうこと自体が大事。

(小早川委員)

町会とかいろいろな中で安心して人とつながれるというまちづくり、生きがいの持てる地域を目指していく強みが出るのと、逆に自分が何か困ったときに困ったと言えるような関係だったり、そこの人みんながSOSをお互いに出し合って、自分も出せるし相手にも出してもらうという関係性ができ上がる。「寄り添う」とか、「支え合い」とか、「助け合い」とか、大体同じような意見が出た。

(高良委員長)

将来目指す地域の姿は多分ほとんどどなたも同じものをイメージされるのだろうと思う。そこの中では強制ではなく、それぞれの自分の立ち位置やスタンスも守れるような地域でもなければいけない。

ボランティアの方も得るものが必要だということでは、やりがいみたいなものが感じられるということは、ちゃんと必要とされている自分の力を生かせる場が必要。

あとは発表の場、自分たちがやったことを認めてもらえる場があるといい。発表できるような場があることによって、一段とやっていこうという継続性とやっていこうねというボランティア同士のつながりも出てくるのだろうと思う。

(濱松包括支援係長)

出た意見などを含めて、改めて参考案みたいなものをつくって協議体に諮り今年度中に一応市としてはこういったものができるという形で進めたい。

3 その他

次回協議体の開催予定

(濱松包括支援係長)

次回は来年1月28日の火曜日午後2時から4時予定。

4 閉会